

関東森林管理局入札等監視委員会審議概要

(Webサイト掲載日:平成30年11月14日)

開催日及び場所		平成30年9月21日(金) 関東森林管理局 2階小会議室		
委員		橋爪 健(弁護士(委員長)) 田島 聡子(ジャーナリスト)		
審議対象期間		平成30年4月1日～6月30日		
審議対象案件		395件	うち、1者応札案件 108件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 3件	
抽出案件		7件 (抽出率 1.8%)	うち、1者応札案件 3件 (抽出率 2.8%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件 (抽出率 33.3%)	
抽出案件内訳	工事	一般競争	2件	うち 1者応札 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争	公募型指名競争	該当なし
			工事希望型競争	該当なし
			その他の指名競争	該当なし
	随意契約	0件		
	業務	一般競争	0件	うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争	公募型競争	該当なし
			簡易公募型競争	該当なし
			その他の指名競争	該当なし
		随意契約	公募型プロポーザル	該当なし
			簡易公募型プロポーザル	該当なし
			標準型プロポーザル	該当なし
	その他の随意契約		0件	
	物品・役務等	一般競争	5件	うち、1者応札案件 3件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件
		指名競争	該当なし	
		随意契約(企画競争・公募)	該当なし	
随意契約(その他)		0件		
(特記事項) 高落札率及び公益法人との契約案件を抽出して審議				
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答等	
	○(A016)当該事業は不安定土砂を固定させるための谷止工とのことだが、不安定土砂を撤去する工事を行うこともあるのか。		○谷止工を設置する際に、工事に支障となる不安定土砂は撤去している。 なお、国土交通省が実施している砂防事業では堆積した土砂を撤去することがあるが、林野庁が実施している治山事業は、崩壊した林地や崩壊の危険性がある林地を安定させることを目的としているため、土砂が堆積した都度撤去することはおおよそ実施していない。	
	○(A016)治山事業は、崩壊が起きてから復旧する場合と事前に予防対策を実施する場合があると思うが、どちらが多いのか。		○復旧と予防どちらも実施しているが、現状では復旧の方が多。 林野庁としては、近年の山地災害の発生状況を考慮し予防対策にも力を入れたいと考えているところ。	
○(A016)落札者は、目的物本体に係る直接工事費よりも一般管理費等の間接経費の見積もり額を抑制した結果落札しているようだが、間接経費を落とした場合、工事の安全性に影響するようなことはないのか。		○施工箇所に近い事業者が落札しているため、通勤等の経費を抑制できたと考えるところ。 入札の際には、工事の安全性等を考慮し、最低入札価格を設定し、それを下回った場合は履行の確実性の確認も行っている。		

<p>委員からの意見・質問、それに対する回答等</p>	<p>○(A016)入札価格のほかに技術評価の基準評価値を定めているが、基準評価値の数字はどのように影響してくるのか。</p> <p>○(B013)入札率が100%となっているが、このようなことはよくあるのか。</p> <p>○(B013)林道沿いに丸太を集積するストックポイントを作設する工事を一般競争入札で発注したのが初めてのことだが、これまでは随意契約で実施していたのか。</p> <p>○(I005)年間で契約した場合、市場価格が変動すると思うが、年間を通じてこの単価なのか。</p> <p>○(L006)モニタリング調査等の委託事業の場合、予定価格の積算が難しいと思うが、どのように価格設定しているのか。</p> <p>○(L006)当該事業は過去から継続して発注しているようだが、過去にも今回落札した公益法人が落札しているのか。</p> <p>○(L006)当該事業は生物多様性の復元のためのモニタリング調査等であり、環境省が実施するイメージがあるが林野庁でも発注しているのか。</p> <p>○(N041)立木販売と造林事業の価格内訳はないのか。</p> <p>○(N041)伐採搬出事業と造林事業のどちらも実行できる業者は数多くいるのか。</p> <p>○(O027)契約価格の規模からすると、入札に参加を希望する者が多くいてもおかしくないと思うが、難しい作業内容なのか。</p> <p>○(P052)重機を操縦するオペレーターなどの技術者は不足しているのか。</p>	<p>○技術点の標準点(100点)を予定価格で除した値を評価基準値として定めており、この値を上回ることが落札の条件となっている。一方、各入札者の評価値は技術評価点(標準点+加算点)を入札価格で除した値が算出される。 すなわち、同額の入札価格を示した入札者が2者以上いた場合、技術評価点が高い者が落札する仕組みとなっている。</p> <p>○工事の場合、予定価格は千円単位で積算するが、本件は偶然切りの良い数字になったため入札額と同額となったと思われる。</p> <p>○発注機関である天竜森林管理署でストックポイントを作設する事業を発注したのが始めてということである。</p> <p>○年間で契約しているが、市場連動方式を採用しており、単価変動を考慮し毎月の単価を決定している。</p> <p>○公告の際に仕様書を示し委託事業の内容を記載し、実施する内容を企画提案してもらい審査する形態をとっており、その際に事業の価格を参考として提出してもらい予定価格の参考としている。また、過大な提案内容とならないよう、入札説明で事業規模を示しているところ。</p> <p>○競争性を確保するため一般競争による入札を実施しているが、委託内容が植生や生物のモニタリング調査等の専門的な知識が求められる内容であることから、入札者が少ない実態にあり、過去も今回落札した公益法人が落札している。</p> <p>○林野庁としては、国有林を管理していることからこのような事業も実施している。</p> <p>○入札は一括で実施しているが、落札者から立木販売と造林事業の価格の内訳を提出してもらい、それに基づき、それぞれ契約している。</p> <p>○現状では両事業を実行できる業者は多くないため、入札の条件として共同企業体での入札を可能としている。</p> <p>○作業内容が難しい訳ではなく、年度当初に事業を受注し、手持ち業務がある場合、参加を希望しないところが多いことから応札者が少なかったと考える。</p> <p>○土建業全体としてオペレーターが不足しているかどか判断できないが、市街地等の工事に比べ、未舗装や砂利路盤の林道では作業効率が悪く、熟練の技術者を要するため、予定価格の範囲内で実施できる事業者は少ないと考える。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>特になし</p>	

関東森林管理局入札等監視委員会苦情処理会議審議概要

開催日及び場所	平成30年9月21日（金） 関東森林管理局2階小会議室			
委員	橋爪 健（委員長・弁護士） 田島聡子（ジャーナリスト）			
再苦情申立概要	申立日	件名	契約方式	契約月日
	H . .			H . .
	内容等  該当なし			
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答	
委員会による意見の具申又は勧告の内容				